

第1回 アジアヘッドクォーター特区と京浜臨海部
ライフイノベーション国際戦略総合特区の連携に関する検討会
議事要旨

日時：平成24年8月8日（水）13：00～14：00

場所：永田町合同庁舎7階特別会議室

議事要旨：

○総合特区制度の概要・検討項目・国際戦略総合特区の概要について

- ・ 事務局より総合特区制度の概要及び検討項目（案）、東京都及び川崎市より国際戦略総合特区について説明した。

【委員からの主な意見】

- ・ 企業誘致・MICE等の拠点形成と関係が深いみなとみらいのエリアを含めて議論すべきである。
- ・ 羽田空港に隣接した2つのエリア（羽田跡地エリアと殿町エリア）の地理的な価値をしっかりと反映した形で事業をすすめていく必要がある。
- ・ 研究開発機能の拠点となる京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区は、海外に発信できる、海外に通用する人材を育成する拠点にもなりうると考えている。また、この地域においては、アクセスの問題が重要であり、道路だけでなく、鉄道機能も含めて議論すべきである。
- ・ この地区において日本発の医薬品等を開発していくということが重要である。
- ・ この2つの地域は日本のものづくりが高度に集積した地域であり、羽田空港のアクセスの改善が進むと大きな効果が期待できる。
- ・ 都市再生特別措置法に基づく支援措置は充実を図ってきたところであり、これらの制度の活用を促進するとともに、不足する部分は補って円滑に事業が進むように工夫することも考えられる。
- ・ 本検討会における検討を進める中で、インフラの必要性に関するサポートを考えていきたい。
- ・ 今後の鉄道整備のあり方や羽田空港の鉄道のアクセス機能の強化を検討する上で、本検討会の議論を参考にしたい。
- ・ 羽田空港の発着回数は今後段階的に増加することから、その時間軸も意識しながら議論すべきである。併せて、優れた保管機能を持つ羽田空港の国際貨物ターミナルの活用が進むことを期待。

- ・ 京浜地区は世界に類のない技術を持っているが、次の先端的な産業領域の中にどう結び付けるか、どのように海外展開していけるかが大きな課題である。
- ・ 人の流れだけでなく、物流面も含め、国際港湾である京浜港全体をどうするかという面も意識して議論を進めるべきではないか。
- ・ 狭い地域で別々にやるのではなく、日本全体にとってプラスとなるように連携を深めることが非常に重要である。また、インフラの整備も課題であるが、この面については広域的な視点も踏まえて議論すべきである。

○今後の進め方について

- ・ 事務局より今後の進め方を説明した。
- ・ 今後は、幹事会を設置し、テーマごとに議論を進めていくことが了承された。